



ジュニアスポーツリーダースクールサマーキャンプ実習

サマーキャンプ実習の感想

キャンプの初めの頃と比べると、知らなかった子ともしゃべれるようになったし仲良くなれました。1日目、4年生は海水浴、5年生以上はカッターに乗りました。カッターでは漕ぐ時に使う權を立てたり、みんなで息を合わせて漕いだりとチームワークが必要となりました。2日目はホステリング、砂の造形、キャンプファイヤーなどがあり、ホステリングでは怪我をした子のリュックを持ってあげたり、おんぶをしてあげたりして助け合いをしました。砂の造形では富士山をテーマに砂を積み上げたり、水で固めたりしながら、みんなで協力しながら完成させました。キャンプファイヤーではシニアリーダーの人達が色々なゲームを考えてくれて、とても楽しいひと時になりました。最終日の野外炊飯では、それぞれの役割を決め、活動に取り組みました。3日間とても楽しく勉強になりました。

3班 班長：北川 翔也

16年前、地区内での子ども会活動が休会する傾向の中、復活させようのことから始めたラジオ体操スクール



「おはようございます！」
の元気よい声が校庭のあちらこちらから聞こえてきます。

周りを見渡すとベビーカーを押しながらの若いファミリー、中高年の方々や、おばあちゃんとお孫さん、幼児や小学生達と、あらゆる世代の人達が朝の挨拶を交わしながら陽をいっぱいにいだく校庭へと集つて来られます。



「16年を迎えた喜志小学校 夏休みラジオ体操スクールに参加して…」

平成20年8月16日（土）から18日（月）にかけて国立淡路青少年交流の家（兵庫県南あわじ市）にてジュニアスポーツリーダースクール・サマーキャンプ実習を実施しました。8月16日早朝に市民総合体育館をバス2台で出発し、昼には国立淡路青少年交流の家に到着し、昼食後5年生以上はカッター（オールをもって漕ぐ小型艇の一種）、4年生は海水浴を実施、夜には星空観測研修、海ホタルの観察を行いました。

2日目の午前中はホステリング（自分たちで考えて行動する旅）、午後は砂の造形、夜はキャンプファイヤーで大いに盛り上りました。

3日目には野外炊飯でカレーと手作りバターのジャガバタを作り昼食としました。その後13時過ぎに国立淡路青少年交流の家をあとにして富田林への帰路につき、ほぼ予定通りに市民総合体育館に戻っていました。今回のサマーキャンプ実習では、指導者および事務局12名、シニアリーダー9名で、参加者72名を10班に分けて、班ごとに活動をさせました。それぞれの班での協力や集合時間を守ることなど基本的な行動はできていたと思います。このような活動を通じて異年齢の中で自分の役割を自覚して、リーダーとして積極的に行動できるようになってもらいたいと思います。



おすすめウォーキングコース

今月のウォーキングコースは、久野喜台小学校⇒亀の甲⇒三津屋川沿い⇒池之内橋⇒西高野街道⇒草沢⇒ハーモニータウン⇒伏山⇒久野喜台小学校までの全行程約1時間半の平坦なコースです。

西高野街道は、国道310号線を西に一筋入った高野山へと続く旧道ですが、旧家も多く、所どころに田畠も残って、昔ながらの佇まいがあります。一行は、草沢の交差点で、路地売りの葡萄をいただいて、新しく出来た住宅地を抜けたて、帰路へ、新旧の街並みを感じるコースとなりました。



西高野街道沿いにある
支那藏敷地
そな
うで
す。
休憩
も出
来る、

オリンピック

オリンピックの元は、紀元前9世紀に古代ギリシャで行われていた「オリンピア祭典競技」でギリシャ各地から選手が参加していました。大会の期間およびその3ヶ月は聖なる休戦期間でした。その当時は、全能の神ゼウスをはじめ多くの神々を崇めるための神域における体育や芸術の競技、祭だったようです。日本の相撲と似ている所があります。

また、オリンピックは四年に一度開催される理由は古代ギリシャ人が太陽暦を使っていたからという説が有力です。一般的に使われている太陽暦が8年と3ヶ月にほぼ等しく暦を司るのは神官で8年ごとに祭典が開かれ、のちに半分の四年となりました。古代のオリンピックの競技は1スタディオン（約191m）のコースを走る競走だけでしたが、これがスタジアム（競技場）の語源と言われています。1スタディオンは、ゼウスの足裏600歩分に相当し、ヘラクレスがこの距離を実測したと伝えられています。その後種目が増え、ディアロウス（400m）、ドリコス（長距離、スタディオンの距離を十往復）、ペントスロン（五種競技）、レスリング、ボクシング、戦車競走、パンクラティオン（今のK1などに近い）などが行われていました。

紀元前146年ギリシャはローマに支配され、キリスト教を国教と定めたことでオリンピア信仰を維持できず393年に一旦終焉をむかえました。その後、1500年の時が流れ、1892年フランスのクーベルタン男爵は、ソルボンヌ大学で行った「ルネッサンス・オリンピック」と題して講演を行い世界の国々が賛同し、1896年記念すべき第一回オリンピックがその故郷であるギリシャで開催されました。

クーベルタンの言葉として有名な「オリンピックで重要なことは勝つことではなく参加することである」は英米両チームのあからさまな対立により険悪なムードだったロンドン大会（1908年）の中の日曜礼拝のためにセントポール寺院に集まった選手を前に主教が述べた戒めの言葉でした。

今年は北京オリンピックの年です。この原稿を書いている頃は、真っ最中です。「スポーツを通しての心身の向上、国や地域を越えて友情、連帯感、フェアプレーの精神をもって理解しあうことで、平和でよりよい世界の実現に貢献する」というオリンピズムの精神を思い出しながらこの原稿を読んでいたいている方々がスポーツや趣味、芸術に親しんで頂き心身ともに健康であられることを願っております。

